

森林でも都市部の公園でも、よく見かける「キノコ」の一つに「カワラタケ」があります。漢字では「瓦茸」と書きます。「キノコ」の一種なのですが、いわゆる「キノコ型」はしていません。名の通り「瓦」のような革質の菌体が幾重にも重なって群生しています。

カワラタケはサルノコシカケの仲間的一种で、「サルノコシカケ科」に分類されていますが、近年「タマチョレイタケ科」という名称にすべきだという論争も起きています。主に枯れ木や切株に発生し、材を白く腐らせる「白腐れ (しろぐされ)」を起こす「木材白色腐朽菌 (ふきゅうきん)」の一種です。かつて、シイタケが「ほど木栽培」が主流だった頃は、害菌の一つでもありました。過去には「抗がん作用がある」と考えられ、図鑑にもそう書いてありました。煎じて服用する民間療法もありましたが、現在ではその効能は否定されています。硬くまずいので、食用にもなりません。

カワラタケは子実体が強靱な革質で、成長が止まっても腐敗しません。従って一年中見ることができます。先日北区浮間にある公園で見かけたカワラタケは、切り株全体を重なるようにして覆い、まさに「黒い瓦」のように見えました。

(2025年1月下旬／北区浮間)

